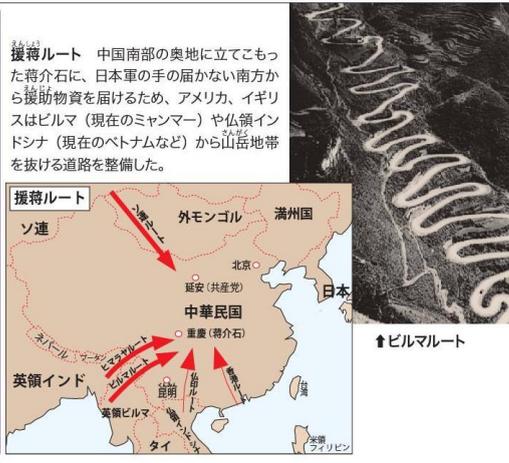


① 虚構の「南京事件」は一切書かず実在した通州事件を書いた

4 北京東方の通州^{つうしゅう}→P.234には親日政権がつくられていたが、7月29日、日本の駐屯軍不在の間に、その政権の中国人部隊は、日本人居住区を襲い、日本人居留民385人のうち子供や女性を含む223人が惨殺された(通州事件)。



② アジア諸国の独立に果たした日本の役割を感動的に描く



チャンドラ・ボースとインド国民軍 (1993年発行のインドの切手より)

資源の収奪や横暴さに批判を加えながらも、日本の植民地解放の功績をたたえました。タイのククリット・ブラモード元首相は「12月8日」と題して、次のように大東亜戦争を回想しています。

「日本のおかげでアジア諸国はすべて独立した。日本というお母さんは難産をして母体をそこなったが、生まれた子供はすくすく育っている。12月8日はお母さんが、一身を賭して重大決心をされた日である。さらに8月15日は、我々の大切なお母さんが病に伏した日である。この2つの日を忘れてはならない。」



タイのククリット・ブラモード元首相 (1911~95)

③ 東京裁判にマッカーサーが疑問を持っていた事実を明記した

●マッカーサーの反省

1) 年5月か 東京裁判開廷の最高責任者だったのはマッカーサーでした。戦争中告とされ、被東条英機以下

負けた側を裁多数が勝った争犯罪は裁かります。また、

1950(昭和25)年10月、マッカーサーはトルーマン大統領に会ったとき、同年6月から始まった朝鮮戦争をとりあげて、国家の指導者を平和に対する罪で裁いても戦争を防止することはできないのだと、東京裁判について疑問を述べました。

このような批判や反省のある裁判ですが、現在の日本政府は、「裁判は受諾しており、異議を述べる立場にはない」としています。

ハル判事 1886~1967

→外地か、 げ者をむか、

将兵以外に各地域で暮らした日本人たちも。こうしたちは海外で楽い産を失い、引の途中で亡くなり、家族を失ったも多かった。

そうだったのか!

厚木飛行場に降り立つマッカーサー (1945年8月) 連合軍最高司令官として5年半、日本を統治した。